

2015 年度 事業報告書(2015 年 1 月 1 日から 2015 年 12 月 31 日まで)

特定非営利活動法人化して 2015 年 10 月で 3 年が過ぎ、福島県内の全ての児童養護施設での事業展開ができました。特筆すべきは健康手帳電子化システム開発(事業 1)で、第 11 回日本パートナーシップ大賞(パートナーシップサポートセンター)の優秀賞を宗教法人 日本ルーテル教団、福味商事株式会社との協働事業で受賞したことでした。

事業毎の活動実績は以下の通りです。

事業 1: 福島県の児童養護施設入所者の健康状態の把握に係わる事業

(A)健康状態把握事業では、2014 年 9 月から 6 施設で導入した健康手帳電子化システムの活用のサポートを行いました。さらに入力による職員の負担を少なくするためにケース記録と連動させる拡張機能(自立支援計画、ジェノグラムなど搭載)の開発を始めまして、12 月にソフトウェア「すこやか日誌」が完成して、県内 5 施設で順次導入しています。

「健康手帳を卒園生に贈る事業」は 3 年目となり、2015 年 3 月には卒園時に 22 名(3 施設)の児童に贈ることができました。

(B)内部被曝のモニタリングは、尿中セシウム検査を 3 施設において継続して実施しています。尿検査時期に合わせた時期の施設の食事を陰膳方式で放射能測定(ゲルマニウム半導体)で実施しました。

(C)外部被曝のモニタリングは、2012 年～継続実施しており、ポケット線量計 10 台を使用して 3 施設で小舎毎に計測しています。また個人線量計「クイクセルバッジ」の着用は、線量が低くなった 1 施設では 3 月で終了として、1 施設では子どもと職員が継続しています。

また、空間線量(Thermo 社 PRDS)及び、表面汚染計(B-20)計測器 2 台(Thermo 社製)の、正確な測定のための較正をしました。

(D)健康診査事業は甲状腺エコー検査を 3 施設で実施しました。

事業 2: 福島県の児童養護施設入所者の被曝に係わる事業

食品の放射能測定推進のためのコンサルテーションと、被曝低減化のための資金確保及びマッチングは、青葉学園の食品放射能測定機器の較正費用のマッチングを支援しました。その他にも、施設の被曝低減活動のための費用のドナーを探してマッチングするための活動をしました。

事業 3: 福島県の児童養護施設入所者の健康教育に係わる事業

(A)放射線に関する教育:2015 年度から勉強会の開催方法は、全施設が一会場に集まる集合型から、施設毎に開催する方法に変更しました。

集合型では、総会記念講演会「児童精神のトレンドと発達障がいを持つ子どものケアの視点」を(2015 年 2 月於 コラッセ福島)、施設毎の勉強会は 1 施設で各 1 回開催できました。

(B)ヨウ素剤に関する教育は、甲状腺エコー検査を実施した施設に於いて、ヨウ素剤の飲み方、実物などについてポスターを貼って、子どもたちに解説をしました。

事業 4: 児童養護施設に従事する看護職等の専門職の連携推進に係わる事業:

2013 年に実施した「児童養護施設の看護師の役割に関する全国調査」は、他県の児童養護施設の看護師と

問題意識の共有をできるという波及的な動きがあり、当事者のネットワークへ広がりました。全国調査の結果の一部を、「児童養護施設の福祉職と施設長からみた児童養護施設で看護師と福祉職と一緒に働く利点，北日本看護学会誌 17 巻 2 号」で公表した(ライブラリー参照)。

また、健康手帳電子化システムの開発協力を通して、卒園生にとって「健康手帳」に記録しておく有益な健康情報や卒園後のフォロー体制を他県の施設看護師と検討することができました。さらに第 12 回西日本児童養護施設職員セミナーに参加して、各県から参加した看護師と、看護師の役割の情報交換を行いました。

事業5: 市民を対象とした児童養護施設の子どもの健康に関する啓発活動に係わる事業

ホームページは、日本語版を 9 月に、11 月には英語版をバージョンアップをしました。

ニュースレターは 2015 年度から年2回(以前は 3 回)の発刊にし、6月にニュースレター10号、12月にニュースレター11号を発刊しました。

運営体制としては、第3回定時総会を2015年2月15日に開催し、2015年度の活動、予算の承認を得ました。

また2015年～2017年の中期目標を設定しました。理事会は2月、6月、11月、3回開催しました。

助成金は日本キリスト教海外医療協力会、タケダ いのちとくらし 再生プログラム、日本ルーテル教団 東日本大震災支援対策、草の根応援基金、指定寄付として全国児童養護施設協議会・第10回西日本児童養護施設職員セミナー大阪大会実行委員会から受ける事ができました。また第2回道草チャリティコンサート、ロックキングオンジャパン、女声合唱かまくらの風のコンサート収益、他にも多くの団体、個人の寄付、会員(90名2015年12月現在)により支えられました。